第６学年　国語科学習指導案

日　時　　平成２４年１０月５日（金）
児　童　　６年１組　男子１０名　女子１６名（５校時）
　　６年２組　男子１０名　女子１８名（６校時）
指導者　　瀧澤　まゆみ
　　田口　一茂

１　単元名　　ものの見方を広げよう
　教材名　　「『鳥獣戯画』を読む」

２　単元を貫いて位置付ける言語活動とその説明

単元を貫いて位置付ける言語活動	第６学年　「読むこと」（２）ウ 「自分流！『鳥獣戯画』の解説文を作成し家族に紹介しよう。」
言語活動の説明	＜情報解釈力に関わって＞ 　絵と文章を対照しながら、筆者の着眼点や評価の仕方、表現の工夫を読み取る学習を通して、筆者が絵巻物の「絵のどの部分」を「何に着目し」「どのように評価しているのか」を学ぶ。 ＜自己活用力に関わって＞ 　筆者の着眼点や評価の仕方、表現の工夫を視点として読み取ったことをもとに、自分で選択した『鳥獣戯画』の一場面を解説する。
必要とされる知識・技能	①　解説文の構成要素（絵の評価・詳しい分析・自分の考え） ②　絵の着眼点　③評価語彙　④書き出しや文末の表現の工夫

３　単元について

（１）児童について

　子どもたちは、これまでの「読むこと」の説明的な文章の学習において、書かれている内容をとらえるために段落に着目したり、構成や要旨を読み取ったりする学習をしてきた。「感情」「生き物はつながりの中に」では、「『生きているということ』について自分の考えを意見文に書きまとめ、学年交流会をしよう」という言語活動を設定し学習を進めた。この学習を通して、要旨をとらえ、筆者の考えに対し自分の知識や経験、読書経験をもとに自分の考えを書きまとめることで、自分の考えを明確にして読む力を身に付けることができた。さらに、各々の考えを交流したことで、互いの考えの共通点や相違点を明らかにし、考えを広げたり深めたりすることができるようになってきている。

　上記のような力を身に付けてきた子どもたちに、次に身に付けさせたいのは、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読む力である。要旨をとらえ自分の考えを明確にして読む力に比べ、どのような事実を事例として挙げ理由や根拠としているのか筆者の意図や思考を想定しながら読む力は十分とは言えないのが子どもたちの実態である。

【身に付けさせたい力】

　○ものの見方や感じ方を読者に伝えるための筆者の表現の工夫や効果をおさえながら読む力。

（２）教材について

　第５学年及び第６学年の「読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能

力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる」である。

本教材は、絵に対する解説と解釈、評価が述べられた評論文としての特徴をもつ。解説や評価の筆者のものの見方とその対象が明確に記されているため、筆者のものの見方をとらえやすく、自分の見方と比較することができる教材である。また、絵と文章を照らし合わせて読むという読みの方法を身に付けたり、語りかけるような表現や体言止めなど、ものの見方や感じ方を読者に伝えるための筆者の表現の工夫を学ぶことに適した教材である。

（3）指導にあたって

児童の実態や教材の特性から本単元で子どもたちに身に付けさせたい力を、「ものの見方や感じ方を読者に伝えるための筆者の表現の工夫や効果をおさえながら読む力」と考えた。

第一次では、単元導入時に、『鳥獣戯画』を見て、気付いたことを発表し合い、教材に対する興味をもたせる。さらに、教師が提示した場面の解説文を書かせる。しかし、書けないことが予想される。そこで、教材文の解説と自分が書いた文章を比較させ、「どうすれば解説文が書けるか」と投げかけ、本単元の言語活動である「自分流！『鳥獣戯画』解説文を作成し家族に紹介しよう」につなげ、単元の学習の見通しをもたせる。

第二次では、筆者が絵巻物の「絵のどの部分」を取り上げ、「何に着目」し「どう評価」しているのかを読み取らせることで、絵と文章を対照しながら効果的に読む方法を学ばせる。さらに、筆者の絵の評価の仕方や、文章表現などの筆者の工夫やその効果を読み取らせる。

第三次では、第二次までに学習してきたことをもとに、第一次で自己選択した場面の解説文を書かせる。第二次で学習した筆者の着眼点、評価語彙、表現の工夫を生かしながら解説するので、筆者のものの見方を読者へ伝えるための工夫と効果について、更に理解が深まると考える。

以上の点に留意しながら指導することにより、子どもたちに「ものの見方や感じ方を読者に伝えるための筆者の工夫や効果をおさえながら読む力」が身に付くものと考える。

4　単元の指導目標

◎絵と文章を照らし合わせたり、絵を解説したりしながら、筆者の着眼点や表現の工夫を読み取ることができる。　「読むこと」（2）ウ

〇文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
「読むこと」（2）オ

5　単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・絵巻物や解説絵巻を作成することに関心をもち、筆者の着眼点や表現の工夫について読み取ろうとしている。	・絵と文章を照らし合わせたり、絵を解説したりしながら、筆者の着眼点や表現の工夫を読み取っている。（2）ウ ・文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。　（2）オ	・文末表現や助詞の使い方など語句に着目して読み、語句と語句との関係を理解している。（1）イ（オ）

6　指導計画及び評価規準　（「読むこと」５時間）

次	時	学習活動	□評価規準 ◇身に付ける知識・技能	身に付けさせたい力とそのために用いる手立て				
				課題設定力	資料活用力	情報解釈力	自己活用力	相互交流力
一	1	○『鳥獣戯画』を見て、気付いたことを発表し合い、絵巻物に関心をもつ。 ○自分が書いた文章と筆者が書いた解説文の比較を行い、「自分流！『鳥獣戯画』の解説文を作成し家族に紹介しよう」という学習課題を設定し、教師が作成した解説文を見たり、単元の学習計画を立てたりする。 ○お気に入りの場面を１つ選択する。	□絵巻物や絵を解説することに関心をもち、「自分流！『鳥獣戯画』の解説文を作成し家族に紹介しよう」という単元のゴールを知り、解説文を作成するために必要な知識・技能を把握したり、学習の見通しをもとうとしたりしている。　【関】 知識・技能　①解説文の構成要素 ②絵の着眼点 ③評価語彙 ④書き出しや文末 ◇①解説文の構成要素	○学習計画・学習する必要感・知識技能の把握				
二	2	○絵と文章を照らし合わせながら「『鳥獣戯画』を読む」を読み、筆者のものの見方をとらえる。	□絵の描き方や絵巻物について、筆者がどんな感じ方や評価をしているのか、絵と文章を照らし合わせながら読みとっている。　【読】 ◇②絵の着眼点　③評価語彙			○言葉の抽出		○読みを明確
	3 **本時**	○読者に伝えるための筆者の表現の工夫を読み取る。	□考えを効果的に伝えるための表現の工夫について考える。　【読】 ◇③評価語彙　④書き出しや文末の表現			○文中における役割		○読みを明確
三	4 **本時**	○自分の選んだ場面について、筆者の着眼点や評価語彙、表現の工夫を生かして絵を解説する。	□第二次までに蓄積した知識や技能をもとに、自分が選んだ場面を解説する。　【読】				○蓄積の活用	○交流の視点の明確化
	5	○完成させた「自分流！『鳥獣戯画』の解説文」を交流し、単元をふり返る。	□自分の考えを広げるという目的を理解し、完成させた自分の解説文を説明している。 【関】 □単元の学習活動や、自分の解説文をふり返り、改めて「筆者の思いや見方、考え方」や「筆者の文章の書き方」について考える。 【読】			○自分の読みの立場を明確		○交流の視点や目的の明確化

《課外》
完成させた「自分流！『鳥獣戯画』の解説文」を家族に紹介し、家族から一言コメントをもらう。

7　本時の指導（６年１組　第二次第３時）

（１）本時の目標　　自分の見方や感じ方を読者に伝えるための筆者の表現の工夫を読み取る。

（２）本校の研究に関わって

情報解釈力　　「教材文を課題に即して詳しく読み、書かれている意味や内容、構造，意図などを把握する力」

⇩

高学年　　「文章の構成や表現の意図に着目して読み取る力」

（３）本時の指導

	学習活動、発問（〇）	指導上の留意点（・）　手立て【　】
つかむ 5分	1　本時の学習活動を確認する。 2　本時の課題を把握する。 筆者の表現の工夫にはどのような効果があるのか考えよう。	・単元の学習計画表をもとに、本時では自分のものの見方や感じ方を読者に伝えるための表現の工夫を学ぶことを確認し、本時の学習課題へとつなげる。 ・既習事項をもとに①評価語彙②文章表現の工夫（書き出し、文末表現、短文、体言止め）などが表現の工夫の視点であることを確認し本時の見通しを持たせる。
ふかめる 35分	3　筆者は自分の見方や感じ方を読者に伝えるために，どのような表現の工夫をしているのか考える。 〇「筆者が用いた表現の工夫にはどのような効果があるのでしょうか。」 〇「なぜ筆者はこのようにたくさんの表現の工夫をしたのでしょうか。」	・「表現の工夫をした文」の具体例を提示し、「表現の工夫」を具体的に全員にとらえさせる。 ・確認した視点に沿って本文中から表現の工夫を探させ、その効果を考えさせる。 【言葉の文中における役割】 ・表現の工夫の効果を考えることが困難な児童には、工夫がない場合と比較すると文章から受ける印象がどう変わるか問いかけ工夫の効果について考えさせる。 ・表現の工夫をしたことによって、筆者のどのような見方や考え方が伝わるのか話し合い、表現を工夫した意図を自分なりに考えさせる。
まとめる 5分	5　学習の振り返りをする。 6　次時の予告をする。	・本時の学習を振り返り、使ってみたい言葉や表現方法を「言葉のポケット」に記入させる。更に「使ってみたい筆者の表現の工夫とその理由」も記述させる。 ・次時は、学習したことを生かして「自分流！『鳥獣戯画』の解説文」を作成することを伝える。

（４）本時の評価規準

自分の見方や感じ方を読者に伝えるための筆者の表現の工夫を読み取ることができる。【読（ウ）】

８　本時の指導（６年２組　第三次第４時）

（１）本時の目標　　筆者の着眼点や評価語彙、表現の工夫を生かして自分が選んだ場面を解説する。

（２）本校の研究に関わって

自己活用力　「身に付けた技能や読み取ったことをもとに、自分の思いや考え、生活経験などを加えて目的や課題を達成する形にまとめる力」

⇩

高学年　　「身に付けた技能や読み取ったことをもとに収集した情報を整理して、課題に合った形にまとめる力」

（３）本時の指導

	学習活動、発問（〇）	指導上の留意点（・）　手立て【　】
つかむ ２分	１　本時の学習活動を確認する。 ２　本時の課題を把握する。 学習したことをもとに、「自分流！『鳥獣戯画』の解説文」を完成させよう。	・単元の学習計画表をもとに学習計画を想起させ、再度、「自分流の解説文」を家族に紹介することを確認し、本時の学習課題へとつなげる。 ・本時の学習の進め方を把握させ、今までに学習してきたことを生かしながら、解説文を作成すれば良いという見通しをもたせる。
ふかめる 38分	３　身に付けてきた知識や技能をもとに解説文を作成する。 〇「自分が選んだ場面について、どんなことを家族に伝えたいですか。」 〇「自分が選んだ場面のどんなところを解説しますか。」 〇「どんな工夫を使って解説文を書きますか。」 ４　解説文を友だちと交流し、再度自分の解説文を加筆修正する。	・選択した場面の絵を改めてじっくりと見させ、伝えたいことを明確にする場を意図的に確保する。 ・解説したい部分を考えさせ、必要に応じて同じ場面を選択したグループ同士で交流させる。 ・解説する部分にシールを添付させる。 ・解説文は300～400字程度とする。 ・本時までの学習で蓄積されている評価語彙や文章表現から、自分の解説文に必要な言葉や表現を抽出させる（言葉のポケットの活用）。 【蓄積してきたことの活用】 ・解説文を書くことが困難な児童には、選択した場面のどこを解説したいのか、どこが面白いと思ったのか等、解説文に必要な具体的な視点を問いかけ、伝えたい事柄に合う言葉や表現を考えさせる。 ・着眼点や評価語彙、文章表現の工夫を生かして解説しているかという視点で、できる限り同じ場面を選択した児童同士で意見交流させる。
まとめる ５分	５　学習をふり返る。 ６　次時の学習を知る。	・ふり返りの際に、単元始めに書いた解説文を再度読ませ、本時で書いた解説文と比較させ、学習を通して身に付けた力を実感できるようにする。 ・次時は、完成させた解説文を学級で交流することを伝える。

（４）本時の評価規準　　筆者の着眼点や評価語彙、表現の工夫を生かして自分が選んだ場面を解説することができる。【読（ウ）】